

会 議 概 要

●開催概要	
名 称	新バスシステムに関する説明会（南万代小学校区コミュニティ協議会）
日 時	平成 25 年 8 月 7 日（水）午後 7 時から午後 8 時
場 所	総合福祉会館 1 階 視聴覚室
説明者	新潟市都市政策部新交通推進課、都市交通政策課 新潟交通株式会社
参加者	10 名
●会議内容	
<p>(1) 市民説明会（1 巡目）開催結果の報告（新潟市）</p> <p>(2) BRT 運行計画（案）（BRT 当初導入時点）について（新潟市）</p> <p>(3) BRT 当初導入時点のバス路線再編計画（案）について（新潟交通株式会社）</p> <p>(4) 質疑応答 ★発言者 ○新潟市発言 ●新潟交通株式会社発言</p> <p>★発言者 1（男性）</p> <ul style="list-style-type: none">・水島町から市役所へよくバスを利用する。今回の再編では、とても不便になるなという感じを受けた。昭和大橋を通る路線がなくなるのか。 <p>●新潟交通株式会社</p> <ul style="list-style-type: none">・今回の提案では、乗り換えを 1 回はしていただくという形になる。これにより、それぞれの路線の運行本数を増やすということが可能になると考えている。・水島町からの場合は、南高校で乗り換えるか、新規に設定する新大病院線のバス停を原信の近くに設置したいと考えているので、これらをご利用いただき、市役所、新大病院のほうに向かっていただきたいと考えている。 <p>★発言者 2（男性）</p> <ul style="list-style-type: none">・先回もいろいろと説明を聞いた。全部で幾らかかるのか。30 億円もかかるのであれば、交渉して新潟交通に渡せばと言いたくなる。だれがその 30 億円を背負うのか。30 億円もあるのであれば、新潟市が新潟交通を買収し、交通局を作ればいい。 <p>○新潟市</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 27 年度夏前までの部分を整備すると、30 億円ではなく 13 億円かかる。その後、専用走行路などを整備し、30 億円くらいが想定されるが、まず平成 27 年の夏前の段階で、開業させていただき、その状況を踏まえて進めていきたいと考えている。・30 億円で新潟交通を買収して、交通局を作ったらどうかというご意見だが、色々な都市で交通局を持っているところがあるが、実態を見てみると、東京以外は年間 10 億円単位での赤字を抱えて運行しているような状況。その赤字を一般会計から税金を使って、何とかやっているというような状況になっていることから、交通局を民間に譲渡し、民間の活力を使って交通を確保している都市が、全国の趨勢になっている。新潟市としても、今、新潟交通がバス運行を担っており、一緒に取り組んでいくということが、今回の新バスシステムである。	

★発言者2（男性）

- ・私は81歳になったが、大体40年間勤めた。今は、免許証など買ってくる時代で、我々は取っていた時代。その差がある。我々の時代は、働きながら教えられて、3年間勉強して取ったが、今は全然考え方が違う。
- ・新潟は豪雪地帯。雪が降る。除雪センターを作ってやるのであれば、まだ話は分かる。それであれば、私は賛成する。私の経験がいうのだから、それを信用してもらいたい。
- ・ドイツ製のベンツを買ってきて、ぐるぐる回っている、それがバス路線だなんて、冗談じゃないと言いたい。

★発言者3（男性）

- ・先進都市と新潟市を比較して、条件が大体同じなのかどうか。それから、BRTが走り出したら、財政的にどうなっていくのか。

○新潟市

- ・連節バスを導入して、BRTをやっているところとしては、岐阜がある。岐阜は、今回、新潟がやろうとしているところに一番近いやり方。岐阜もかなり利用者が増えてきており、けっこう人気がある。ただ、岐阜などの他都市でも、いろいろと課題があるので、そういった課題をどうするかということを中心にきちんと見据えながら、悪い部分や改善する部分があったら、それは新潟に合った形でやっていく必要があると考えている。
- ・財政的な話だが、初期投資として、当初のBRT運行開始段階で13億円を見込んでいる。ただ、その13億円についても、国から補助金を半分強もらってやっていく。市としては、きちんと健全な財政確保ができるように取り組んでいく。
- ・今回、連節バスは神奈川から借りてくる。神奈川では、藤沢や厚木、町田市で走行している。町田市も新潟に似たような形で、市街地を走るタイプ。千葉では京成バスが、他に兵庫県でも運行されており、最近、導入事例が増えてきている。

★発言者1（男性）

- ・先進都市の話が出たが、大体暖かいところが中心で、冬場の雪のことが一番気になる。除雪も、一度にどっと雪が降ったときには混乱すると思うが、冬場の雪が残るような状況の中での運行は、どう考えているのか。

○新潟市

- ・雪の状況については、国内外でいろいろな事例がある。そもそも連節バスを作っている会社が降雪・積雪とか凍結があるようなスウェーデンなどの寒い国であるため、雪対策については、国内外の事例を見ても、そんなに心配はしていない。
- ・日本でも今年の1月、首都圏でかなりの雪が降った実態があったが、そのときでも、神奈川などで走っている連節バスについては、圧雪、凍結状態でも、スタッドレスに履き替えて、きちんと走っていたため、概ね大丈夫だと考えているが、除雪体制もきちんと強化していきたいと考えている。

★発言者2（男性）

- ・最近はバス利用者の動態調査をやっているのか。きちんと調査したのか。新潟交通のバスの乗り継ぎがないからだめだと、対応が悪いから導入するのだというなら話は分かるが、根本を考えずに、新しいバスを導入すれば、お客は乗るだろうということではだめ。どのバスが、どこで乗り降りするのかということをはっきりと把握したうえで、どうしても新しい交通システムをやらなければだめだというのであれば話は分かる。

●新潟交通株式会社

- ・今、新潟交通のバスは、オートガイドシステム、ドライブレコーダー等の色々な車載システムを搭載している。それらの機械を使って、路線全て、各バス停の乗降データがすべて取れるという状況になっている。今回の路線再編を進めるうえでも、こういった乗降データを参考にしながら進めており、あくまでも、予想というよりは、実際のデータを活用し、進めているというところ。

以上